

JAAF MIE

# 三重陸協会報

第 6 号

一般財団法人  
三重陸上競技協会

事務局・〒516-0023 伊勢市宇治館町 510 (三重交通Gスポーツの杜伊勢 内) TEL・FAX 0596-22-8890 URL:http://mierk.jp/ MAIL:info@mierk.jp

## いあいさつ

三重陸上競技協会 会長 豊田利一

今年5月に「伊勢志摩サミット」が志摩市で開催され、三重県が日本国内だけでなく世界からも注目されています。また8月にはリオデジャネイロオリンピックも開催され、世界の注目が集まる中、三重県からもぜひ選手が参加し、三重陸協を世界に向けてアピールしてほしいものです。昨年末、デンソーが実業団女子駅伝で大会新記録三連覇という偉業を達成してくれました。チームのローガンは「Forever Challenge」。守りに

はいるのではなく、常に「挑戦者」の気持ちを持って強化に取り組んだ結果でした。三重陸協も今年には挑戦者として、オリンピックをはじめ、選手強化、大会運営など新しい取組にどんどん挑戦していきたいものです。さて、三重インターハイまであと2年となりました。その後も国体など全国大会が続けて開催されます。その舞台となる三重交通Gスポーツの杜伊勢(県営陸上競技場)の改修工事もあり、伊勢の魅力伝える新しい競技場の準備も進んでいます。大会の成功のためには選手活躍が最も重要になります。主役となる選手の育成は、三重陸協の一番の課題ではないでしょうか。小学生・中学生・高

校生・大学生・実業団と全てのカテゴリーが連携して、一貫した強化を進めていかなければ、全国から集まってくる選手を迎えうつことはできません。また、全国から集まってくる選手・役員の方に対して最高の「おもてなし」は、しっかりと行いたい大会運営・競技運営を行うこととです。そのためには、運営システムの構築、審判員の確保と技術の向上など、取り組まなければならぬ課題が沢山ありますが、着実に準備を進めていかなければなりません。今年には競技場が使えないなかで、選手強化や大会運営を行わなければならない。そんな時だからこそ、三重陸協一丸となって取り組み、その力を全国に示していくため、新たな挑戦を始める年にしていきたいものです。



## 2016年に向けての取組について

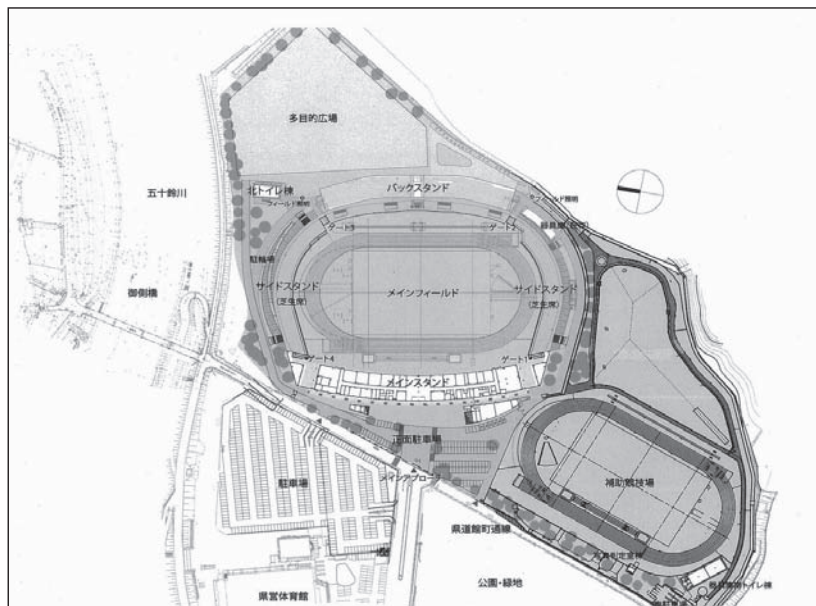
三重陸上競技協会 専務理事 松澤 二一

2016年も明け、早2か月が過ぎようとしています。今年年はリオオリンピックの開催年です。本県・本県出身者から何人の選手がオリンピックに選ばれるのか気になります。昨年末には、デンソーの実業団3連覇という偉業が達成され歓喜に包まれました。しかし、年明けの全国道府県駅伝大会では、この流れを結果に結びつけることができなかつたように思います。尾西・高島・岩出のドリームチー

ムで挑む準備ができ、今年の中学期・高校生の記録をみると好結果が期待されたのですが、大会直前のケガによる選手変更で非常に厳しかったと思います。男子も同様に、実業団のエース選手が直前のケガにより選手変更を余儀なくされ手痛かつたと感じています。残念です。2017年の道府県大会に期待したいと思います。さて、三重インターハイまで残すところ2年数か月。強化部

県では、必要かつ欠く事ができないものと思っております。これからの強化部の取組に注目していただきたいと思います。先日、日本陸連主催で行われました全国運営責任者会議では、東京オリンピックに向けたルール改正がたくさん出てきました。これから全国大会を控えた本県の審判員の皆さんには、ルールを熟知いただき競技運営に役立てて頂きたいと思っております。しっかりと勉強して頂きたいと思っております。

今年には競技場が使えないなかで、選手強化や大会運営を行わなければならない。そんな時だからこそ、三重陸協一丸となって取り組み、その力を全国に示していくため、新たな挑戦を始める年にしていきたいものです。



を中心、色々な計画が打ち出され、三重インターハイに結果を残すべく中学・高校の選手強化に取り組んでいます。1年間を通して選手のコンディショニング。今までの新しい取組をしてきています。「継続こそ力なり」これこそ三重県のような小さな

新装なったサブトラックを使用しての大会運営となります。私どもも、どの様なシステムになっているのか把握しきれない状態です。少しでも早く各部所との連携について確認し、少しでも早く使い慣れて頂きたいと思っております。しかし、現在のサブトラックには審判員の休憩施設がありません。シーズンが始まるまでには休憩施設の設置、また、暑い時期の対暑対策を考えていかなければなりません。これから2年間は、今までのような方法で大会運営できないことを理解してください。

# 各地区陸協報告

## 桑員陸協

昨年もないなべ市内にチームのある株式会社デンソーが全日本実業団女子駅伝に出場、3連覇をしたことは地域や桑員陸上競技協会としても大きく、喜ばし事であった。

桑員陸上競技協会としても、多くの全国大会出場選手を輩出していきたくところであるが、各年代層においての選手強化が課題であり、そうしたなかでも陸上競技を知らない顧問の先生方が、各校で一生懸命に取り組んでいただいているが、なかなか強化に結びつかない状況である。少しでも陸上競技未経験の教員の指導力向上の為に合同練習会をおこない、選手はもちろん指導者の育成もおこなった。この取り組みも毎年継続して実施する事が重要だと感じている。

また、普及の目的で実施したフェスティバルが定着し、今年度は大東文化大学の土井杏南選手を招いて陸上クリニックを開催し、日本のトップレベルの選手から直接指導を受け、また話を聞かせてもらったことは選手にとって非常に良い経験になったと思う。また、保護者も楽しみにしている機会として、スポーツグッズの即売や飲食物の販売など、さまざまなお店の協力により盛大にでき、選手も保護者も陸上競技を楽しむ機会

会ができた事は非常に良かったと思う。

今後三重国体、三重インターハイ開催において更なる強化をおこない、また少子化のなか1人でも多く陸上競技者を増やす為に、さまざまな手法を使い陸上競技人口の増加を目指していきたいと思えます。

## 三泗陸協

1月に開催した三泗小学生タスキリレー大会を最後に本年度の競技会をすべて無事終了いたしました。ソフト面では、小学生から高校生までのそれぞれの校種において多くの生徒が三重県代表として全国大会に出場し健闘してくれました。特に、夏の全国高校総体においては四日市工業高校が男子4×100mリレーにおいて第2位に入賞、全国小学生大会では保々RCの榊原駿太君が男子走高跳において第3位に入賞する等活躍してくれました。また、暁中学からは男女各1名の選手が都道府県対抗駅伝のメンバーに選出されて活躍しました。ハード面においては、昨年完成したナイター設備のおかげで、中央緑地陸上競技場において夜間においても多くの人が学校や会社勤めの帰りに練習等に取り組んでいます。また、来年度もナイター設備を利用した長距離記録会を2回実施する予定です。

三泗地区の中学校において約半数の学校に陸上競技部がない現状をふまえ、今までもいくつかのクラブチームが、学校でクラブをしようとできない生徒たちを対象に熱心な活動を行ってきたおかげで一定の成果をあげてきてくれました。まだまだ課題は山積していますが、生徒たちが少しでも陸上競技に打ち込めるよう創意工夫を重ねながら、普及の面においても取り組んでいきたい所存です。小学校の普及については、クラブチームには所属していない子どもたちを対象に「走る・跳ぶ・投げる」の楽しさを体感してもらうことを目的に、本年度も昨年の12月に講習会を実施しました。中学校教員の指導者を中心に小学生の指導にあたりました。また来年度から小学生の投てき種目として導入されるボータック投の講習も行い好評でした。

三泗地区の中学校において約半数の学校に陸上競技部がない現状をふまえ、今までもいくつかのクラブチームが、学校でクラブをしようとできない生徒たちを対象に熱心な活動を行ってきたおかげで一定の成果をあげてきてくれました。まだまだ課題は山積していますが、生徒たちが少しでも陸上競技に打ち込めるよう創意工夫を重ねながら、普及の面においても取り組んでいきたい所存です。小学校の普及については、クラブチームには所属していない子どもたちを対象に「走る・跳ぶ・投げる」の楽しさを体感してもらうことを目的に、本年度も昨年の12月に講習会を実施しました。中学校教員の指導者を中心に小学生の指導にあたりました。また来年度から小学生の投てき種目として導入されるボータック投の講習も行い好評でした。

また、11月には一部の複数の学校が練習指導の一環としてアメリカから招いた一流指導者に、三泗地区の他の高校生にも指導してもらう機会を昨年11月に設け、多くの短距離ブロックの高校生が学ぶ機会をもつことができました。

四日市中央緑地公園においては、今後全国高校総体・国体の開催に合わせて体育館の建て替えやサッカー場の増設が計画されていますが、それに合わせて念願のサブトラックの建設も市のほうで実現に向けて前向きに検討してもらっています。四日市市においても充実した陸上競技の取り組みや

競技会の運営が可能になるよう、今後も市との連携を密にして実現に向け取り組んでいく所存です。来年度は、伊勢の競技場の改修に伴い四日市の競技場を使用しての県大会が数多く予定されています。アナウンス関連設備の充実や情報機器に対応できるための電気関係設備の設置等、円滑な競技運営ができるようにこれからも施設の充実に努めたいと存じます。

## 鈴鹿陸協

今年度も鈴鹿市内外から多くの選手が競技会に参加いただき有り難うございました。また、各年代の選手の育成にご尽力いただいた指導者の皆様、大会運営に携わっていただいた審判員の皆様方に改めて御礼申し上げます。

それでは各年代で活躍した鈴鹿市出身選手を紹介します。小学生では全国大会に竹田高嶺選手(石薬師RC)が女子走高跳、坂口美苑(イムラAA)が女子走幅跳で出場しました。竹田選手は県大会で1m35の大会新記録をマークし、全国大会でも同記録で見事3位に入賞しました。

中学生では大木中学校勢が大活躍!水野華歌選手(女子100m)、太田ひまり選手(四種競技)、女子400mR(太田・水野・杉本・浅野)で全日本中学選手権に出場。400mRでは49秒07のタイムで見事6位に入賞しました。高校では神戸中学校から四日市

工業高校へ進学した伊藤舞樹選手が全国高校総体に200mと400mRで出場。アンカーとして東京高校と大接戦の上、見事2位に入賞しました。

秋の日本ジュニア選手権でも200mで4位入賞と活躍しました。中学時代に全く実績の無かった選手が次の年代で活躍してくれたことを大変うれしく思います。

他にも鈴鹿市出身で市外の高校に進学した選手達がインターハイや国体、駅伝で活躍してくれました。

一般では衛藤昂選手(白子中↓鈴鹿高専↓筑波大学院)が三重陸協尽力のおかげで地元AGF鈴鹿株式会社就職し、社会人として地元で活動拠点を戻しました。春先のGPシリーズで2m28の世界選手権参加標準記録をクリアし、中国で開催されたアジア選手権では2m43の記録を持つバルシムに勝って優勝するなど大活躍!日本選手権で2位入賞し、初の世界選手権大会日本代表に選ばれました。北京世界選手権では残念ながら予選落ちでしたが、秋の国体では三回目の優勝を飾り三重の陸上界を牽引してくれました。

これらの活躍も現場の指導者をはじめ関係団体のお力添えのためものと深く感謝いたしております。特にAGF鈴鹿株式会社様からは小学生大会地区予選時に参加者全員にTシャツのご提供、通信大会では東海大会に進んだ中学生選手全員にTシャツ、顧問

にはポロシャツをご提供いただき選手共々チーム鈴鹿として大変モチベーションを上げることが出来ました。

また、普及活動として清和小学校でキッズアスリート陸上教室を三重陸協主催の元で開催させていただきましたことが出来ました。県記録保持者の選手達が見せるデモンストレーションに子供達は一喜一憂し、大きな盛り上がりを見せ大成功裏に終わることができました。次年度以降継続していきたい行事の一つとなりました。

平成28年4月から石垣池陸上競技場はAGF鈴鹿陸上競技場と名前を変え、迎えるインターハイ、全国中学選手権、国体、東京オリピックに向けて地域の方からの支援を受けて普及と強化を盛り上げていきたい所存です。

新年度も鈴鹿陸協発展のために皆様のお力を賜りますよう宜しくお願いいたします。

## 亀山陸協

新春恒例となった「かめやま江戸の道シテイマラソン大会」は今年で第25回目を迎え1月10日に開催しました。参加者は昨年より120名ほど増え、1、959名が旧東海道を中心とした各コースで健脚を競いました。中でも1・5kmのジョギングの部には443名の参加があり、体力づくりに向けた健康ブームの高まりが伺えます。ジョギングから更

上のコースに出場し記録に挑戦している方も少なくありません。よ

り多くの皆様が参加できるようク  
ラスやコースを考慮し、シテイマ  
ラソンを更に発展させていきたい  
と考えています。また、今大会に  
は市内出身の落語家、「林家菊丸」  
さんがサブライズで応援に駆け付  
けていただき、大会を盛り上げて  
くれました。

昨年の競技会では、小中学生の  
陸上クラブ「JAC 亀山」及びそ  
の出身者や市内の高校、中学の選  
手が県内の大会で優勝や上位入  
賞、また全国大会や海外の大会で  
も大活躍してくれました。

また、「美し国三重市町対抗駅  
伝」は昨年 8 位入賞で連帯感も強  
まる中、今年は更に上位を目指し  
て出場しました。

小さな市ですがシテイマラソン  
大会の他に小学生の陸上競技会、  
スポーツ少年団体の駅伝大会、亀  
山市駅伝大会等を開催しています。  
2 月 14 日に開催した亀山市駅伝大  
会は今年で第 62 回となり歴史ある  
大会です。30 チームを超える参加  
があり盛大に開催できました。こ  
れらの行事も亀山高校の生徒さん  
や先生方及び各団体の指導者の



(シテイマラソン 4.5km のスタート)

方々にお手伝いをいただいで運営  
しています。また、今後県内で開  
催される高校総体や三重国体に活  
躍できる選手の育成にも各団体と  
連携を深めて進めていきます。

### 津陸協

津地区は約 70 名の審判員からな  
り、陸上競技の普及・強化を主な  
目的として記録会・大会・スポー  
ツ教室等を開催しています。

平成 27 年度を振り返ると、全国  
高校総体と国体（少年 A）の 2 冠  
を達成した村木亮太さん（久居高  
男子ハンマー投）をはじめ、全国  
大会では茂山千尋さん（国士館ク  
ラブ、日本選手権女子砲丸投）、

岩出玲亜さん（ノリッツ、日本選  
手権女子 1000m）、植松直紀  
さん（中京大、日本学生対校選手  
権男子ハンマー投）、山本フェビ  
アスさん（宇治山田商業高、全国  
高校総体男子 4 × 400m R）、

田辺佑典さん（伊賀白鳳高、全国  
高校選抜大会男子 2000m S  
C）、別所竜守さん（松阪商業高、  
国体少年 B 男子砲丸投）、藤田晃  
輝さん（一志 Be a s t・立成  
小、全国小学生交流大会男子 80m  
H）が入賞するなど、津市および  
津市出身の選手が活躍してくれま  
した。また、岩出玲亜さんは、1  
月の都道府県対抗女子駅伝で三重  
県チームのアンカーとして快走し  
てくれました。さらに、リオデジャ  
ネイロオリンピック出場権獲得を  
目指して名古屋ウィメンズマラソ  
ンに出場します。三重のスパー  
ヒロイン野口みずきさん（伊勢市

出身）とともにさらなる快走を期  
待しています。

津地区には、公認の陸上競技場  
がなく、27 年度も伊勢度会、鈴鹿、  
三河、松阪など多くの地区陸協さ  
んの温かいご配慮を賜り、大会や  
記録会を実施させていただきました。  
厚くお礼申し上げます。

津市へ競技場新設の要望を継続  
して行い、平成 30 年高校総体、32  
年東京オリンピック、33 年三重国  
体に向けて、小中高の連携を深め、  
さらに陸上競技の普及・強化に努  
めていく所存です。

### 松阪陸協

今年の成果については、小学生  
チームが充実し、全国小学生大会  
に出場する選手が出るなど、県内  
でも活躍する選手が多く輩出でき  
たということがあります。また、  
中学生においても、全国大会に多  
数出場し、全国中学生大会で、多  
気中学校の田中君が棒高跳びで 3  
位、嬉野中学校の藤田さんが 4 種  
競技において 8 位入賞を果たすな  
ど活躍してくれました。また、  
中学生全体のレベルはたいへん底  
上げし、県大会などで、松阪地区  
の選手の活躍が目立った一年でし  
た。このことは、小学校との連携  
の成果だと考えられ、今後の選手  
育成のモデルになっていくものだ  
と考えます。そして、高校生でも  
松阪商業高校や相可高校を中心に  
たいへん活躍することができ、特  
に、国民体育大会など全国のレベ  
ルでの活躍が、目立った一年でし  
た。地元の高校が元気よく活動し

ていることで、中学校の選手たち  
もその気になり生き生きと活動で  
き、そのことが小学生の指導者の  
やる気を増大させているという循  
環がうまくいっているのが、今年  
度、松阪地区が活躍できた大きな  
要因であったのではないと思われ  
ます。松阪地区陸協は規模も小  
さく、少人数での運営となってい  
ますが、今後も、小中高の合同練  
習会などを開くなど、連携を大切  
にした選手育成に取り組みたいと  
思います。

### 伊勢度会陸協

平成 27 年度も各年代で伊勢度会  
陸協出身・所属の選手が大活躍し  
てくれました。なんとといっても世  
界選手権女子 5000m で見事に  
決勝進出を果たした尾西美咲さ  
ん（小俣中↓宇治山田商業高校出  
身）。中学時代の恩師である福井  
清先生（現・玉城中）が試合会場  
まで応援に駆け付け、その絆はテ  
レビでも紹介され反響を呼びまし  
た。また、大学生では日本学生個  
人選手権で伊勢工業高校出身の東  
魁輝くん（岐阜経済大）が男子  
400m、中西琢磨くん（大阪体  
育大）が男子やり投、南伊勢高校  
出身の村上輝くん（国士館大）が  
男子砲丸投でそれぞれ優勝。高校  
ではインターハイで宇治山田商業  
の男子 4 × 400m R が 6 位、濱  
崎優紀くんがやり投げ 7 位、宇治  
山田の山中大勢くんがハンマー投  
で 7 位に入賞。中学では全日本中  
学選手権で城田の長澤拓輝くんが  
走幅跳で 2 位に入賞。小学校でも

全国小学生の 5 年女子 1000m で  
神社小の世古綾葉さんが 5 位、ソ  
フトボール投で度会エンペラーズ  
の松本浩さんが 6 位入賞と例年以  
上に各年代で好成績を収めてくれ  
ました。

さて、ご存知のように「三重交  
通 G スポーツの杜伊勢」の陸上競  
技場はすでに改修工事が本格化  
し、補助競技場は 4 月に完成予定  
ですが本競技場完成には 2 年ほど  
を要します。更に伊勢志摩サミッ  
トの開催により 4 月・5 月の大会  
開催は困難を極めることが予想さ  
れます。本競技場の完成までは（県  
大会もですが）補助競技場での競  
技会開催となります。これまで走  
幅跳のピットは 3 本ありましたが  
補助競技場では 2 本しかないな  
ど、これまでと同じ規模では競技  
会開催が難しい状況にありますの  
で参加条件の変更なども検討しな  
ければなりません。また、他の地  
区の大会へ参加させていただく人  
数も例年以上に増えるかもしれま  
せん。恐れ入りますがそのあたり  
の事情を考慮いただきご協力いた  
だきますようお願いいた  
します。

### 鳥羽志摩陸協

平成 27 年度は、文圃中学校が鳥  
羽志摩地区の中学校では初となる  
男女総合優勝を達成しました。こ  
こ数年、小学生の普及強化を行っ  
た選手がメンバーの中心選手とし  
て活躍してくれていることも、う  
れしいかぎりです。

鳥羽志摩地域の、小学校の教員

の方々への審判講習会や実技講習  
会を開催し、毎秋に鳥羽・志摩で  
開催される、小学生記録会への審  
判派遣など地域の学校との連携を  
図り、地域が一体となって普及・  
強化に取り組んでいます。

毎年恒例となった国府の浜での  
砂浜やクロスカントリーを活用し  
た冬季合同練習会に加え今年度  
は、シーズン中にも競技場などを  
お借りし小中の合同練習会を開催  
しました。練習会には、他地区の  
小中学の学校・チームにもご参  
加いただき交流ができたこと、三  
重で陸上をしている仲間づくりが  
できたことも大きな成果でありま  
す。

今後は地区内の学校へ走る・跳  
ぶ・投げるの楽しさを感じてもら  
うために「出前陸上教室！」を開  
催していく予定です。また普及と  
強化、指導者の育成を進めていき  
鳥羽志摩地区がさらに一丸とな  
り、三重 IH、三重国体を迎える  
ことができるよう頑張っていきた  
いと思います。

### 伊賀陸協

伊賀市には、現在小学生のクラ  
ブチームが 3 クラブあり、三重県  
陸上大会伊賀市予選会には 3 クラ  
ブを含め小学校区単位で 400 名  
余りの参加があるが、中学校では  
1 クラブにとどまり、小学校で陸  
上をやめてしまう傾向にある。

伊賀市には、伊賀白鳳・上野高  
校など県内でも指導者・競技実績  
とも充実している高校があるの  
で、高校陸上部の指導者にも協力

していただき、中学校から高校への選手の流れをうまくつくっていききたい。また、伊賀市は他の地区との連携がほとんどなく、学校統合等でスタッフが減少・高齢化し、大会の運営が心配されますので、近隣の市町等で協力し合い小学生を対象にした教室を開催するなど小学生・中学生を中心に高校生・一般の参加をしていただく記録会や大会を計画していきたいと考えています。

### 名張陸協

名張市陸上競技協会は、発足して早50年の歴史が経過しました。これもひとえに、先代の方々の努力の賜と思っています。しかし、その中の活動を振り返ると、名張市の行事と共に楽しんできたもののばかりで、選手自身の育成、発展に繋がるものはありませんでした。そこで、一人でも多くの選手を県大会、東海大会、全国大会へと送り出したいと思い、陸協は名張市と共に「名張クラブ」というクラブチームで動きだしました。

平成22年5月に発足して、当初は21名（マスターズ18名、中学生3名）でした。平成23年3月に75名（マスターズ28名、高校生2名、中学生45名）。平成23年69名（マスターズ33名、高校生2名、中学生17名、小学生17名）、平成24年85名（マスターズ38名、高校生2名、中学生19名、小学生26名）、平成25年85名（マスターズ32名、高校生7名、中学生18名、小学生26名）、平成26年90名（マスターズ

ズ37名、高校生6名、中学生25名、小学生22名）、平成27年75名（マスターズ40名、高校生3名、中学生20名、小学生12名）です。

平成27年度は、中学生の杉本君（赤目中学校）が1年1500mで東海大会へ出場しました。また、小学生においては、4年生男子1000mで今季のランキング1位の永安正弥と3位の藤森章弘がおります。6年生男子800mは樋口颯大が三重県小学生大会で2位に入賞しています。続いて女子においては800mで6年生の中西優衣も活躍することができました。いつも名張市からの代表は電光掲示板の表示を見るときは、先に下の方から探す事が多かったのですが、上から見る事ができるようになりました。徐々にですが我が陸上協会も決勝へと進む選手が増えてきています。嬉しい限りであります。

マスターズの皆さんの活躍も徐々にですが全国大会での入賞者が増えていきます。今年山崎滋子さんが70歳のクラスで800mのアジア新記録を樹立することもできました。また、男子走幅跳においても奥田さんが日本記録を樹立しました。岐阜で行われた、全国マスターズ陸上選手権には、8人の者が参加しました。その結果全員が入賞を果たすことができました。会員の方は、年齢が上がっても記録は伸びている選手が多く県の医療費削減に大いに貢献をしています。

本年度で6年目を迎える名張クラブですが、活動の一部として、名張市体育協会からの依頼により、小学1年生から6年生を対象にした体幹づくりコアトレーニングの講習会も行っております。最後に、名張市陸上競技場が10年間の長い懇願のもと、全天候型トラックへと改修することが決まりました。環境に恵まれた中で、一人でも多くのアスリートが全国で活躍できるように、一日も早く完成を心待ちにしている昨今です。

### 尾鷲陸協

平成24年度から新体制としてスタートし4年が経ち、来年度から5年目を迎えます。新体制がスタートした当初は未熟な組織ではありましたが、少しずつ経験を積み、組織として成長してきています。尾鷲市は過疎化地域であり、かつ、少子化も進み、陸上の競技人口も徐々に減りつつあります。しかしながら、尾鷲市の中では陸上は人気のある競技であり、多くの小学生が少年団に入団し、陸上競技を行っています。

今後、三重県で国体やインターハイが行われることもあり、尾鷲陸協としては、一人でも尾鷲市から国体やインターハイで活躍できる選手が現れるよう、選手の発掘に力を注いでいます。特に小学生の育成に力を入れています。小学生には多くの大会に一人でも多く参加してもらえよう、また、地元地域の大会にも積極的に参加し、活発に活動するよ

う働きかけています。陸上の大会だけでなく、スポーツに関するイベントが開催されるようであればそのイベントにも地方にも出向き参加し、様々な経験を積ませて人間的にも成長していけるような活動を行っています。また、陸上競技を行っている選手だけでなく、尾鷲市民が誰でも参加できるような大会を開催し、埋もれた選手発掘を行っていく方向も考えています。小学から中学、中学から高校と陸上競技を継続して続けてもらえるような楽しい環境づくりが大切であると考えています。まだまだ小さな組織ではありますが、少しずつ今できることを積み重ねて地域に貢献できるように努めていきたいと思っています。

### 北牟婁陸協

北牟婁陸協は県内で最も小規模な陸協ですが、中学校の部活動を中心に、地域に少しでも明るい話題を提供できるようにと頑張っています。今年度は、紀北中学校の九嶋大雅が東海大会の3000m3位入賞や、県大会での3000m大会新記録での優勝等、数々の優秀な成績を収めて大活躍しました。その結果、東紀州地域の男子中学生として初めて「天皇盃都道府県対抗男子駅伝大会」のメンバーとして走らせていただくこともできました。同僚の東海斗も、4月のリレーカーニバルでの3000m優勝や、2000mでの県中学新記録樹立等、活躍する

ことができました。また、紀北中学校2年生の濱口紀子も、次年度の四種競技や1000mH等での活躍が大いに期待されています。地区内に高等学校はありませんが、北牟婁出身者としては、直江航平（潮南中→宇治山田商業高校3年）が、故障の影響で昨年度ほどの活躍はできませんでしたが、和歌山IHの1600mRのエントリーとして、チームを6位に導くことができました。懸念材料としては、地区内の過疎化に拍車がかかり、人材を確保することがどんどん困難な状況になってきていることです。昨年度は「美し国三重市町対抗駅伝大会」において、第1回大会から続いていた連続入賞がついに途絶えてしまったことは非常に残念でした。普及活動として、尾鷲高校陸上部顧問の垣内元宏先生が指導する紀北RCの活動や、小学校への出前授業等を通して陸上競技の魅力子どもたちに伝え、一人でも多くの陸上愛好者を増やしながら、少

### 熊野陸協

2016年1月現在、熊野RCには小学生・中学生・高校生合わせて71名が在籍しています。練習は、毎週土曜日の夕方に熊野市営グラウンドで、毎週水曜日の夜には飛鳥中学校グラウンドで行っています。また、飛鳥中学校グラウンドでナイター自主練習も行ってきます。本年度は、大江陽菜（小6）が県小学生大会800mHで優勝し、全国大会に出場し、準決勝まで進出することができました。大江は県小学生選手権で、12秒80の三重県小学最高記録をだすこともできました。また、県小学生大会では、岳野迪也（小5）が800mHで2位、中道友菜（小6）が1000mで5位に入賞し、東海大会に進んでいます。県20傑には7種目延べ8人が入っており、部員は着実に力をつけて来ています。中学生では、県中学校陸上競技大会で、前川純太（中3）が砲丸投で優勝、110mHで上中亮（中3）が5位に入りました。前川は、東海大会で8位に入賞しています。

1・2年生も、県の学年別ランキングで上位に入る選手がおり、来年度の活躍が楽しみです。また、本年度も、外部より講師を招いての「陸上教室」を数回開催し、多くの方に参加していただ

こともできました。また、紀北中学校2年生の濱口紀子も、次年度の四種競技や1000mH等での活躍が大いに期待されています。地区内に高等学校はありませんが、北牟婁出身者としては、直江航平（潮南中→宇治山田商業高校3年）が、故障の影響で昨年度ほどの活躍はできませんでしたが、和歌山IHの1600mRのエントリーとして、チームを6位に導くことができました。懸念材料としては、地区内の過疎化に拍車がかかり、人材を確保することがどんどん困難な状況になってきていることです。昨年度は「美し国三重市町対抗駅伝大会」において、第1回大会から続いていた連続入賞がついに途絶えてしまったことは非常に残念でした。普及活動として、尾鷲高校陸上部顧問の垣内元宏先生が指導する紀北RCの活動や、小学校への出前授業等を通して陸上競技の魅力子どもたちに伝え、一人でも多くの陸上愛好者を増やしながら、少



子どもたちに伝え、一人でも多くの陸上愛好者を増やしながら、少



きました。

陸上部のある中学校・高校が少なく、小学校卒業後は違う種目に移ってしまう部員が多いこと。指導者が少ないことが課題ですが、お互いに連絡を取り合いながら小学生・中学生・高校生と継続的な指導ができるようにしています。

地元出身者では、紀宝町出身の高見澤安珠選手（松山大）が、日本選手権3000mSCで優勝、パリでおこなわれたデカネーション大会で日本ジュニア新記録を樹立しました。また、熊野市出身の清水剛士選手（中京大）が、日本インカレ十種競技で優勝（県新記録）しました。

今後も、熊野地区で陸上競技の輪を広げられるように、熊野陸協として「熊野RC」の活動を中心に活動していきたいと考えています。

### 各委員会等報告

#### 競技委員会

ご存知の通り伊勢のメイン競技場の改修により、2016年度からの2年間は新設される補助競技場をメイン競技場として競技会が開催されます。

また、サミットの開催の関係で、今年度上半期を中心に四日市の競技会も多く予定されています。競技会はもとより、駐車場やウォームアップエリア、チームベンチ等多くのご迷惑をおかけすることとなりますが、ご理解・ご協力をよろしく願います。

さて競技運営についてですが、皆様のご協力によりスムーズな競技運営が行われています。

「タイムテーブル通り試合が進む」三重陸協では当たり前のことですが、他陸協では難しいことの1つになっている場合もあるようです。競技者のことを考えれば必然のことであるのですが・・・ともあれ選手優先の三重陸協の motto でもあります。

これは、審判員皆様の高い意識と連携の賜物であり、全国へも誇れることの1つです。

しかし、最初にも記載の通り2016年度から暫くの間、「今まで通り」にはいかない状況があります。したがって、これま

以上の連携や工夫をもって競技会の運営にあたっていただくことが必要となりますので、ご協力をよろしく願います。

今後とも審判員の皆様には、ルールの熟知度も向上させていた

てまいりたいと考えております。

#### 強化委員会

日頃は強化委員会の活動に、ご理解とご協力を賜り、大変ありがとうございます。

平成27年度の国民体育大会（和歌山）は2つの優勝を含む10種目に入賞、天皇杯得点は56点の17位、皇后杯得点は25点の20位という成績でした。

都道府県対抗駅伝では京都で行われた女子が25位、広島で行われた男子が26位でした。しかしながら、男子も女子も選手たちは一つでも上を目指し、一生懸命頑張っていたいただきました。ありがとうございます。

強化委員会としましては、国民

体育大会と都道府県駅伝大会の2つの大会において、結果を出すべく、更に三重国体に向け選手強化をしていかなければならないと考

えています。その強化を推進するために普段から普及部と連携を深めています。

強化部としましては強化指定選手制度を改良し、本年度は高校1、2年生を120名、新たに中学3年生（インターハイエイジ）を60名選出し、冬季の種目別練習会を充実させ、必要に応じて外部からの指導者も招いています。また、本年度から普及部と連携して小学校に出向き、出前授業を3回実施

しました。そこには強化部や普及部はもちろん、地区の普及担当や優秀選手、大学生にもアシスタントとして加わっていただき、よき見本となつて盛り上げていただきました。

#### 情報委員会

平成27年度のHPは41万人強と

発展させていきます。そのために

たくさんの方に訪問いただきまし

た。

たい。

日体協の公認コーチ講習会を隔年で三重県内開催をし、学生にも多く受講してもらい、資格を取ってもらおうと計画しています。

毎年の国体・都道府県駅伝さらには三重国体、インターハイ、全日中などで結果を出すためには、選手の努力はもちろん、指導者もまわりとの連携を深め、共存共栄を合言葉に取り組まなければなら

ないと思います。

#### 普及委員会

今後の更なる発展のためには、

すべての皆様のご協力、ご理解が必要となりますので、何卒よろしくお願い致します。

前委員長の山本浩武先生が県内

全地区を訪問・面談する中で決

められた、普及委員会としての方針を受け継ぎ、今年度は「強化委員

た。リニューアルも考えましたが、見慣れていただいています表紙は当面変更せずこのまま進めさせていただきます。

伊勢の競技場が完成するまでは限られた機器で大会情報を発信しなければならぬ状況にあります。ご不便をお掛けすることもありますが、ご理解をお願いします。今年も更なる飛躍の年になるように期待しております。

#### 普及委員会

を

を

を

を

を

### 平成27年度国体・都道府県対抗駅伝報告

#### 平成27年度 第70回 国民体育大会（和歌山国体） ～優勝2種目 入賞10種目～

天皇杯得点 56点 17位 皇后杯得点 25点 20位

成年の活躍が顕著に出来ました。世界選手権組の男子走高跳の衛藤昂選手（AGF）が2年ぶりの優勝、女子5000mの尾西美咲選手（積水化学）が抜群の安定感を見せ2位と、その実力をいかに発揮してくれました。また短距離男女のエース、諏訪達郎選手（中央大）と世古和選手（乗馬クラブクレイン）が気を吐き、男女100mで6位、4位と入賞を果たしてくれました。学生投擲陣も好調で、男子砲丸投の村上輝選手（国士舘大）、男子やり投の中西啄真選手（大阪体育大）、女子やり投の坂倉杏奈選手（鹿屋体育大）らが全員入賞を果たし、今後の活躍が非常に楽しみになってきました。

少年も健闘し、男子ハンマー投の村木亮太選手（久高高校）がインターハイに続き優勝を果たし、男子B砲丸投の別所竜守選手が大きく自己記録を更新して3位、女子Aハンマー投の瀧田恵里奈選手が7位と松阪商業高校勢の活躍も光りました。

#### 皇后盃 第34回 都道府県対抗女子駅伝 25位 2時間21分20秒

1区で38位と少し出遅れましたが、各区間の選手が踏ん張りタスキをしっかりつなぎ、アンカーの岩出選手が6人抜きの快走を見せ25位に押し上げ、最終的には昨年の順位（27位）を上回りました。

若松監督からは、「例年は大エースや実業団選手が作った貯金がありましたが、今年は故障者が出てチーム事情が苦しい中、中・高校生を中心にこれから三重県を背負って立つ若い選手よくしので、結果として総合力で満足できる駅伝をすることができました。来年は、この経験を生かして今回の結果に満足することなく、さらにステップアップして入賞を目指してほしい。」というコメントがありました。

#### 天皇盃 第21回都道府県対抗男子駅伝 26位 2時間23分42秒

1区の塩澤選手が区間4位の快走でトップを争いました。その後は女子とは逆に徐々に順位を下げ最終的には26位となり、昨年の順位（15位）を上回ることではできませんでした。



普及活動の推進、「指導者の育成」を重点項目として取り組みを進めました。まず、強化委員会の協力を得て、伊勢市と鈴鹿市の小学校を訪問し、全校児童を対象に授業の一環として「キッズアスリート in 陸上競技」を実施しました。このイベントでは、皇學館大学陸上競技部の学生にもアシスタントとして、デモンストレーションや児童の指導にあたっていただいたことで、タレント発掘だけではなく、次世代の指導者に向けての動機付けにもつながったと思われる。また、9月には、皇學館大学において、「JAAF公認ジュニアコーチ養成講習会」を開催しました。同大学の学生を中心に県内外から約100名が参加し、陸上競技の「走・跳・投」の基本技術を中心にその指導方法を熱心に学び、2021年の「三重とこわ



か国体」に向けて指導者の指導力向上を図る有意義な講習会となりました。なお、「JAAF公認ジュニアコーチ養成講習会」については、より多くの学生や指導者の方々に受講していただけるよう、今後も隔年で開催していきたいと考えています。

来年度以降も普及委員会と強化委員会がさらに連携を深め、一体となって、息の長い選手の育成のために努力したいと考えていますので、今後もご支援・ご協力をお願いいたします。

し、もし不都合があれば管理者と折衝して整備の依頼をする。

③ 器具が規格に合致しているかを確認する。

④ 競技会では、トラック、助走路、サークル、円弧、角度、着地場所等が正しく整備されているかを確認し、得点表、成績表、記録表が用意されていることを点検する責任を負う。

⑤ 競技進行中は、全般的に観察し、絶えず審判長や総務と協議を重ね競技の円滑な進行を図る。

- 【競技場および長距離走路の公認終了期日】
- (1) 三重交通Gスポーツの杜伊勢 (補助)
    - 3種 2016年3月下旬 検定予定
  - (2) 伊賀市上野(運)(陸)
    - 4種 2017年3月29日
  - (3) 東員町スポーツ公園(陸)
    - 3種 2017年10月15日
  - (4) 付属長距離走路 (10km)
    - 2017年11月14日
  - (5) 鈴鹿市石垣池公園(陸)
    - 3種 2018年8月23日
  - (6) 三重交通Gスポーツの杜伊勢
    - 1種 2018年検定予定
  - (7) 四日市中央緑地(陸)
    - 2種B 2019年3月14日
  - (8) サルビア(10km)
    - 2019年3月14日
  - (9) 伊勢ハーフマラソン(ハーフ・10km)
    - 2020年5月31日

**ご協賛をいただいた企業**

- 学校法人 高田学園
- 桑名スポーツ
- 魚定
- 更スポーツ
- スポーツショップ四日市
- 株式会社 まるかつ
- ぎゅーとら
- 麻野館
- 山本整骨院
- 八千代工業株式会社
- NTN株式会社
- 株式会社デンソー
- 長谷川体育施設株式会社
- アシックス販売株式会社
- 株式会社 ニシ・スポーツ
- 株式会社 クレーマージャパン
- 岐阜経済大学
- 鈴鹿医療科学大学
- 皇學館大学
- AGF 鈴鹿株式会社

(敬称略)

**日本陸上競技連盟栄章**

和歌山国体期間中、2014年度高校優秀指導者章・中学優秀指導者章の表彰が行われました。

- ◇ 高校優秀指導者章  
和田 靖氏
- ◇ 中学優秀指導者章  
角谷 和宏氏

※競技場の新規公認及び継続の時、申請者は公認期間が切れる3か月前より、申請書を提出できます。尚、公認を廃止にする場合は、必ず廃止届を日本陸連に提出して下さい。公認期間は、5年間です。

※各地区でシテイマラソンの企画及び競技者が増加しています。国際大会や招待選手が走る場合、自転車計測でない公認が認められません。長距離走路の作成や、新規陸上競技場を設置する場合は技術委員会までご相談下さい。

※競技場の新規公認及び継続の時、申請者は公認期間が切れる3か月前より、申請書を提出できます。尚、公認を廃止にする場合は、必ず廃止届を日本陸連に提出して下さい。公認期間は、5年間です。

また、本年度も和歌山県開催の国体本大会及び3度の国体合宿への帯同、新しく事前に国体代表各選手の健康状態等をPC・スマホ等で確認できるシステムの構築を行い、選手のケア・コンディショニングにあたりました。しかしながら帯同に関しては、国体関係の日程と部員の日程調整が上手くいかず、本大会途中から1名のみ派遣ということになりました。現在、部員には学生が多く期間中には授業があり、また社会人の部員には勤務があるため、平日の活動は極めて難しい状況にあるので、全国総体、国体を控えどう対処していくかが課題になっています

来年度も今以上スタッフのスキルアップを図り、選手の方々が安心して参りたいと思います。

尚、来年度は、伊勢の競技場の改修に伴い、サブトラックでの大会開催になることや大会会場の変更が多くあり、トレーナー・ステーションを始めとする施設の設営・活動が困難になってきました。そのため、活動大会数及び1大会での活動部員数を例年より縮小しての活動を予定しておりますので、ご理解いただけますようよろしくお願いいたします。

これからの、医事委員会の活動に、ご理解とご協力、そしてご参加いただけますようよろしくお願いいたします。



平成30年度全国高校総体まで二年半、「まだ先のこと」と感じていましたが、すぐそこまで迫ってまいりました。この大会の実施種目には、女子の棒高跳、三段跳、ハンマー投が含まれます。前年度の山形大会から導入される三種目

に關しても周到な準備をお願いいたします。昭和48年度に地元で開催された全国総体において、三重県は7種目で優勝しています。先人の成し遂げた偉業に敬意を表し、前回に劣らぬすばらしい大会になるようにしっかりと前を向き進んでいくことが私たちに課せられた使命だと思います。高校生と指導者のみならず、保護者や小・中学校、地元の方々と喜びを分かち合うことができる大会になり、次世代に誇りと財産を築くことができれば幸いです。

さて、今年度は、全国総体・団体ともに和歌山県で開催され、男子ハンマー投において、村木亮太君（久居・3）が見事に二冠を達成し、U-19オリンピック育成競技者にも選ばれました。全国総体では総合開会式の三重県選手団の旗手も務め、壮行会では参加者の心に響くすばらしい決意表明をしてくださいました。この大会で県勢は、四日市工が男子4×1000リレーで第2位に入賞するなど7種目に入賞し、昨年度に引き続き、県別獲得得点ではベスト10入りを果たしました。入賞した伊賀白鳳、三重、宇治山田、宇治山田商の皆様にも敬意を表します。

秋の国体では、松阪商が奮起。少年男子B砲丸投第3位の別所竜守君をはじめ、2名の入賞者を出しました。新しく三重陸協強化委員長に就任し、三重県全体を牽引する立場となった山本浩武先生のリリーダースhipは、これからますます三重の陸上界に大きな力を与えることでしょう。

2年生ながら冷静なレース展開で全国総体男子5000m第5位に入賞した塩澤稀夕君（伊賀白鳳）は2月末にバーレーンで開催されるアジアクロスカントリー大会ジュニアの部に出場する予定です。アジアから世界に大きく羽ばたいてくれることを心から願っています。

輝かしい成績のほかにも、うれしいことがありました。高校入学当時は100m14秒台であった伊藤瑞歩さん（松阪商・3）は七種競技で全国総体出場を果たしました。その陰にはかなりの努力があったことと推察しますが、多くの高校競技者に夢と希望を与えてくれました。三重県高校駅伝に北星が初出場してくれたこと、昨年の大会で襷が繋がった白山が今年度も出場してくれたこともうれしい出来事でした。この出来事には本人たちの努力はもちろんのこと、指導者の熱意が加わることで実現できたことだと思います。

来年度の高校1年生が三重での全国総体の主力となります。平成30年度、32年度、33年度とやりがいのあるイベントが続きます。陸上競技を愛好する仲間が増え、陸上競技がますます発展しますように私たちが精進します。これからもよろしくお願いいたします。

申体連 JAAF

平成27年度の中体連では、全日本

本中学（北海道）で、男子走幅跳の長澤拓輝さん（城田中）が2位、男子棒高跳の田中悠貴さん（多気中）が3位、女子4000mリレーで大木中学校が6位、女子四種競技の藤田紗江さん（嬉野中）が8位と4種目の入賞を果たしました。このように多くの選手

が全国で活躍できたことは、三重インターハイに向けてとても良い刺激になったのではないかと思います。

また、ジュニアオリンピック大会でも1、2年生種目で4種目の入賞を果たすことができ、次年度の活躍が期待できる選手もたくさん出てきました。毎年行っている県強化合宿では、競技場改修のため、サブトラック、宇治山田商業高校、五十鈴中学校

に分かれ、人数を減らして行いました。いつもより参加者を半数以下に減らしたことで、きめ細かい指導ができたように思われます。

また、今年の東海合宿は、北信越も加わり9県で行いました。選抜された40名の選手はとても刺激になり、意識も高まったようです。毎年のことですが、クラブチームで育てていただいている選手の間でも多くなっています。学校側とクラブチームがうまく協力

「Forever Challenge」デンソー 大会新記録で3連覇！



第35回全日本実業対抗女子駅伝競走大会（クイーンズ駅伝in宮城）で、デンソーが大会新で3連覇を達成するという偉業を達成しました（この大会で連覇を達成したのは3チーム目になります）。

大会は、昨年12月13日、松島町文化観光交流会館前から仙台市陸上競技場までの6区間42.195kmで行われました。1区を先頭と1秒差の2位でタスキを渡すと、2区主将の小泉直子選手が区間新の快走で先頭に立ち、3区世界選手権代表の高島由香選手が、昨年に続き区間新で後続を1分以上引き離しました。その後1度も先頭を譲ることなく、アンカー初出場の橋本奈海選手も区間賞を獲得し、2位を50秒以上引き離し、昨年樹立した2時間16分12秒を2分近く短縮する2時間14分22秒で、7位までが大会新記録を更新するレベルの高いレースを制し見事3連覇を達成しました。高島選手は、2年連続の優秀選手に選ばれました。



「Forever Challenge」をスローガンに掲げ、日本代表を輩出していきたくないと抱負を語りました。三重県のチームとして、レベルアップして是非、達成して

「Forever Challenge」をスローガンに掲げ、個人としても日本のトップレベルで戦える選手、し合いながら、共に力を合わせて選手が意欲的に活動できることを願っています。

平成28年度は、今年度以上に全



# 三重から世界へ JUMP!

三重県で生まれ、三重県で育ち、現在も三重県で練習し今年のリオオリンピック出場をめざす衛藤昂（AGF）選手。

衛藤選手は、1991年2月5日鈴鹿市に生まれ。家族は鈴鹿高専の陸上部監督、鈴鹿市陸上競技協会の理事長・会長、日本陸連の検定員などを務めた祖父をはじめ両親も陸上選手という陸上一家。小学生時代に鈴鹿ACで陸上競技を始め、6年生の三重県小学生大会には1000mで出場した。白子中学校に入学すると陸上部に入部、走高跳を始めるが専門の顧問の先生がいなかったこともあり、自分たちで練習を考えた。市営の競技場で他校の先生からアドバイスを受けた。

早生まれということもあり、まだ身体も小さく東海大会出場が主な成績だったが、踏み切りから身体を上昇させる動きが上手くできる選手だった。祖父が監督を務めた自宅近くの鈴鹿高専に進学すると、



現在も指導を受ける船越一彦先生と出会い、身体の成長も合さって急成長を遂げる。2年生で初の全国大会であるインターハイ出場、3年でインターハイ3位、4年生で日本選手権5位、5年生で日本学生2位、世界ジュニア出場を果たした。鈴鹿高専専攻科1年で日本学生初優勝、アジア選手権で4位入賞、2年で日本選手権2位と実績を積み重ねていった。筑波大学大学院に進学し、1年生で国体優勝、冬にはヨーロッパの室内大会を転戦、2年生ではセイコーゴールデンランプリで2m28をクリアし、日本選手権で初優勝しアジア大会の代表となったが、本番では力を出し切ることができなかった。そして昨年、再び三重県に戻

り、地元鈴鹿市にあるAGF鈴鹿（※陸協登録はAGF）に入社、午後からは会社近くの石垣池公園陸上競技場（2016年4月よりAGF鈴鹿陸上競技場）で船越先生の指導を受け、アジア選手権優勝、7月のヨーロッパ遠征で2大会優勝、世界選手権出場、国体優勝と大活躍。

部活と地域の支援、ジュニア時代に無理をせず発達に応じたトレーニングができた環境など、陸上界の課題解決のヒントとなるポイントがあります。現在もサプリメントにたよらず食事から栄養素を摂取するよう心がけるなど、ドーピングや身体の管理にも気を配っています。

年次ベスト	
白子中学3年	1 m 71
鈴鹿高専1年	1 m 80
鈴鹿高専2年	2 m 02
鈴鹿高専3年	2 m 07
鈴鹿高専4年	2 m 19
鈴鹿高専5年	2 m 18
鈴鹿高専専攻1年	2 m 24
鈴鹿高専専攻2年	2 m 20
筑波大学院1年	2 m 27
筑波大学院2年	2 m 28
AGF 鈴鹿	2 m 28

## 今年の抱負

まずはリオ五輪の陸連派遣設定の2m31を跳ぶことが目標です。

今年はそれで終わらず日本記録（2m33）の更新、オリンピック決勝進出にもチャレンジしていきます。

三重陸上界を盛り上げていきます！

## ジュニア選手へのメッセージ

中学では県で4番、5番の選手でしたが、今では世界選手権に出られるようになりました。幸いにも高専入学後に身長が伸び、また中学時代に専門的な練習をしかけたこともあり、高専の練習でめきめきと力をつけることができました。

中学では駅伝も走っていましたが、中学時代は焦らず、いろんな種目に取り組んでほしいと思います。

